

■ 関西大学が舞台の映画 4月公開を前に ■

ロケ地マップを学生が制作、5万部を配布へ ～ 映画をより楽しめるガイドとして、学生目線で制作 ～

関西大学を舞台にした映画『今日の空が一番好き、とまだ言えない僕は』（監督：大九明子、主演：萩原利久、ヒロイン：河合優実）が4月25日に公開され、全国100館で上映されます。映画の公開を前に、関西大学の学生たちが中心となり、映画をより楽しめるロケ地マップを制作しました。学生たちの「映画をともに盛り上げたい」という思いに共感した制作委員会（配給会社を通じた協力）や、本学校友会、教育後援会などの支援を受け、約5万部が完成。学内外での配布が始まっています。

本件のポイント

- ・映画『今日の空が一番好き、とまだ言えない僕は』が4月25日に公開、全国100館で上映
- ・約4割を千里山キャンパスで撮影。学生の発案でロケ地マップを制作
- ・制作期間は約3か月。配布場所の交渉も積極的に行い、約5万部を配布予定

▼学生の手で完成したロケ地マップ

『今日の空が一番好き、とまだ言えない僕は』は、関西大学の学生を主人公とした青春映画で、昨年4月に千里山キャンパスで撮影が行われました。映画の約4割が関西大学とその周辺で撮影され、春のキャンパス風景が美しく映し出されています。「自分たちが通う関大がロケ地として全国の映画館で上映されるのはとても嬉しい。関西大学の魅力を、より多くの人に知ってもらい、関大のことをあまり知らない方にもこの映画やロケ地マップをきっかけに興味を持ってもらえたら」という思いから、学生有志がロケ地マップの制作を企画しました。

大学関係者や各店舗に聞き取りをするなど丁寧にマップとその説明文をつくっていきました。「このルートなら授業など大学での活動の邪魔にならずに映画に登場した風景を楽しめる」という推奨ルートもつくりました。

▼3か月かけて学生が主体的に制作

ロケ地マップの制作は、学生たちが中心となって進められました。約3か月の期間をかけ、印刷会社とのやりとりを重ねながら完成させました。また、卒業式や入学式などの学内イベントに加え、商店会や関大前駅、上映映画館など映画に関わりのある場所への設置交渉も学生自らが積極的に行い、配布の場を広げていきました。

ロケ地マップは折り畳み式（縦25.7cm×横41.6cm）で、約5万部を制作。関大生だけでなく、映画を観た人たちにも手に取ってもらい、映画とロケ地をより深く楽しめるきっかけとなることを目指しています。

●映画『今日の空が一番好き、とまだ言えない僕は』について

【監督】大九明子 【出演】萩原利久、河合優実

【制作・配給】日活【上映館】全国約100館（テアトル梅田、109シネマズ大阪エキスポシティ、なんばTOHOシネマズ、MOVIX京都、シネ・リーブル神戸、テアトル新宿、TOHOシネマズ日本橋、ミッドランドスクエアシネマ、センチュリーシネマ、横浜ブルク13、109シネマズ川崎ほか）



< 完成したロケ地マップ >



<印刷会社（左側）と打ち合わせる

学生たち=昨年12月>

この件に関するお問い合わせ先

関西大学 総合企画室 広報課 担当：伊地知、小林、明原

〒564-8680 大阪府吹田市山手町3-3-35

Tel.06-6368-1937 Fax.06-6368-1266